

フォト とちぎ

2013
春
日



表紙 孝子桜(宇都宮市)

特集 運航4年目 栃木県ドクターヘリ
よみがえった廃校舎 NODAレーシングアカデミー (茂木町)
とちぎの景勝百選 花ひろく里
とちぎアーカイブ 国際児童年
古代窯跡研究で全国優秀賞 栃木県立学悠館高校 (栃木市)
シリーズ **とちぎ味** ガーンジィゴールデンミルク (那須町)

特集

運航4年目 栃木県 ドクターヘリ

20分以内に県内全域カバー
出動件数は年約700件(12年度)

救急医療機器と医薬品を装備した小型ヘリコプター「ドクターヘリ」が、全国の救急現場で活躍しています。ヘリには医師と看護師が同乗し、救急現場や機内で初期治療を行いながら、患者を医療機関に搬送します。現在では、全国34か所に、あわせて40機が配備されています。栃木県ドクターヘリは、2010年1月に、獨協医科大学病院を基地病院とし運航を開始しました。離陸から20分以内に県内全域の救急現場に到着して初期治療を展開でき、救命率の向上と後遺症の軽減に大きな役割を果たしています。出動件数は年々増え、昨年度は約700件に達し、運航開始からあわせると1600件を超えています。



ドクターヘリに搭乗したスタッフ。左から看護師の横地瑞さん、医師の和氣晃司さん、平良勝義さん、機長の新村敏幸さん、整備士の伊地知弘章さん

現場からの要請5分後には離陸

基地病院の獨協医科大学病院では、救命救急センターの医師・看護師のうち特別な訓練を受けた20人が当番制で任務にあたります。搭乗するのは医師2人と看護師1人、それにヘリの操縦士と整備士です。紺色のフライトスーツに身を固め、出動要請に備えます。

2月下旬、栃木県ドクターヘリの1日を追いました。通信指令室に、最初の電話が入ったのは午前8時58分。鹿沼市消防本部から、59歳の男性が右半身麻痺とのことでした。通信指令室からの無線連絡があるや否や、別室で待機していた医師と看護師が、医薬品と医療器具が入った大きなバックを背負い、部屋を飛び出しました。救命救急センターの階段を駆け下り、100mほど離れたヘリポートに向かって疾走。

通信指令室に出動要請の電話が鳴ってからわずか5分後、ヘリは救急現場へと飛び立ちました。

患者さんに乗せたヘリが、戻ってきたのは、それから30分後。地上で待機していた医師に引き継がれました。9時49分。2度目の電話が鳴りました。今度は、南那須地区広域行政事務組合消防本部からの要請です。隊員たちは休む間もなく、再びヘリに急行しました。

ドクターヘリが運航できるのは、8時30分から日没時まで。この日の出動はあわせて4件ありました。搬送された人たちはその後、それぞれの病院で治療を受け、無事一命をとりとめました。救命救急センターの一角にある掲示板には、一命をとりとめた人たちからの、たくさんのお礼の手紙が貼り出されていました。



9:03
医師2人、看護師1人が搭乗し、出発準備完了

午前9時33分、患者を乗せたドクターヘリがヘリポートに帰着。患者は待機していた医師たちに引き継がれました



9:33



9:01



指令を受けた医師と看護師は、大きなバックを背負い、ヘリポートに急行

午前8時58分、獨協医科大学病院救命救急センターの2階にある通信指令センターの電話が鳴りました。消防本部の救急隊からドクターヘリの出動要請です。直ちにフライトドクター・フライトナースに指令。救急隊や搬送先の病院と連絡をとる運航管理者



8:58



格納庫からの出し入れを容易にする移動式のヘリパッド。離陸位置までの20mを45秒で移動できます

9:02

ドクターヘリは、119番通報を受けた消防機関が必要と判断した場合に出勤を要請します（県民のみならずが直接要請することはできません）。救急車で搬送された患者は「ランデブーポイント」でドクターヘリに引き継がれます。ランデブーポイントは、あらかじめ登録されたドクターヘリの離着陸場で、各地の公園や学校のグラウンドなど、県内に51か所にあります（3月末現在）。ヘリの離着陸に伴い騒音や砂塵が発生することがあります。着陸の際には消防隊員の指示に従って、着陸場所から迅速に安全な場所へ退避するなど、みなさんの協力が必要です。

ドクターヘリで診療を受けた患者は、原則県内5か所にある救命救急センターに搬送されますが、軽症の場合などは2次救急医療機関へ搬送されることもあります。栃木県ドクターヘリは、現在1機で運用しています。出勤要請が重なることも少なくないことから2011年3月、茨城・群馬・栃木の3県で「広域連携協定」を締結しました。重複要請などで、自県のドクターヘリが出勤できない時や、多数の負傷者が発生して自県だけでは対応できないときに出動します。基地病院から半径50kmを目安に出勤範囲としており、11年度は栃木県外に46件出動。また茨城県と群馬県からあわせて24件の応援を受けました。また、東日本大震災の時には全国ドクターヘリが参集し、患者搬送などで活躍。栃木県のドクターヘリも宮城県に出動しました。

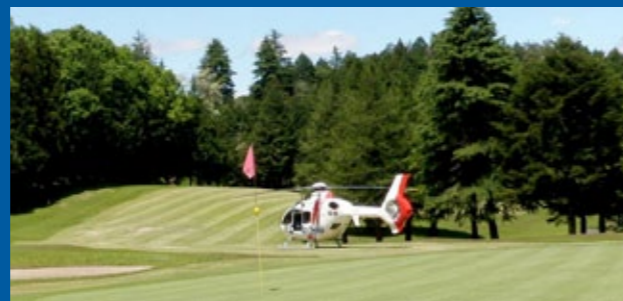
茨城・群馬・栃木県で広域連携



消防機関などの連携をはかるため、県内各地で共同訓練を実施しています



小学校の校庭を利用したランデブーポイント

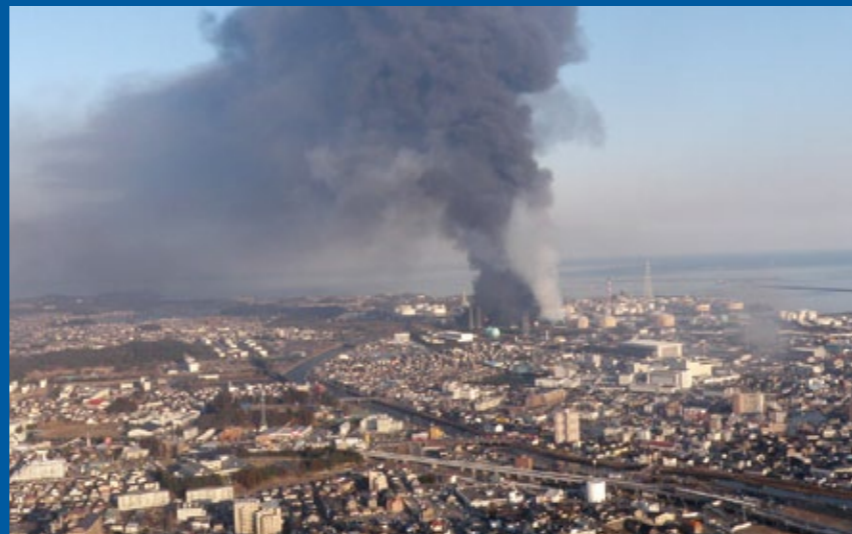


ゴルフ場を利用したランデブーポイント

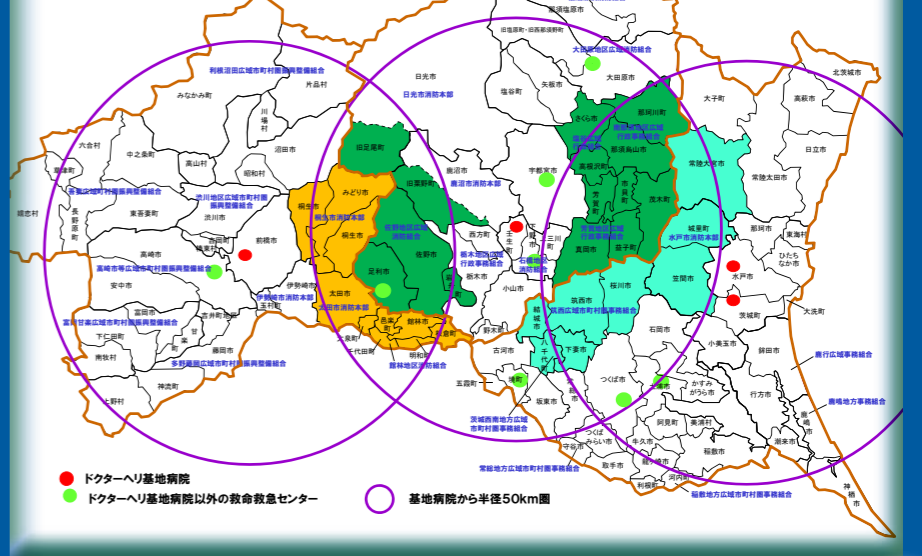
緊急時には、ランデブーポイント以外にも、消防機関や警察機関が着陸場所を確保したうえで、災害現場直近に降りることもあります。交通事故現場近くの県道に着陸したドクターヘリ



2011年3月に発生した東日本大震災の時には、宮城県に出動しました



各県ドクターヘリの出動範囲



栃木県ドクターヘリ 検索

よみがえった廃校舎

レーサーの学校

NODA レーシングアカデミー (茂木町)



少子化などを背景に、過去10年間に全国で2000校以上の公立学校が廃校になっていきます（文部科学省調査）。こうした中、使わなくなった校舎を活用し、地域の活性化に役立てようという取り組みが各地で盛んです。茂木町鮎田にある「NODAレーシングアカデミー」もそのひとつ。7年前廃校になった、旧茂木東小学校を活用しました。校舎の外観はそのままに、内装をリニューアル。レーサーの学校に生まれ変わりました。元F1ドライバーの野田英樹さんが中心となり、モータースポーツの最前線で活躍する人材を育成しようと設立しました。この春、全国から小・中学生など10人が第一期生として入学。生徒たちは、ここで3年間、F1レーサーを目指し、トレーニングと勉学に励みます。

実習用フォーミュラマシンの無線をチェックする野田英樹校長（昨年現地で開かれた学校説明会）



教室を改装した講義室



畳を敷いて休息室に



トレーニングルーム



校舎の外観は、旧茂木東小学校の姿をそのまま残しました



エントランス



練習用カート

NODA レーシングアカデミー

検索



サーキットでの走行実習は、各課程とも毎日行われます



走行実習で使用するフォーミュラマシンを整備するスタッフ

NODA レーシングアカデミーは、ツインリンクもてぎ(茂木町松山)にほど近い、小高い丘の上にあります。校舎は、旧茂木東小学校の外観をそのまま残し、内装だけを変えました。校庭に出ると、ツインリンクもてぎのサーキットを走るマシンのエンジン音が聞こえてくる環境にあります。アカデミーでは、それぞれのレベルに応じて、専門的な教育が行われます。内容は、主にツインリンクもてぎでの走行や車両メンテナンスなどの実習、校舎でのメンタル・フィジカルのトレーニングなど。世界の舞台で活躍できるF1ドライバーのほか、メカニック、エンジニアなどをめざします。「同じ目標を持つ生徒が集まり切磋琢磨し、一流の講師陣のもとでモータースポーツに没頭する。ここに夢への近道があります」と野田英樹校長。

古賀志山 (宇都宮市)

標高約 583 ㍎の低山ですが、切り立った岩場がありロッククライミングの練習場としても知られます。山頂までは、いくつかの登山道がありますが、市の森林公園から入る北登山道、南登山道は、分岐点に案内板が設置されています。



織姫公園 (足利市)



八幡のつつじ (那須町)



八方ヶ原 (矢板市)

つつじの大群落が旺盛です。小間々駐車場周辺では、5月中旬からトウゴクミツバつつじが咲き始め、ヤマつつじ、レンゲつつじ、サラサドウダンつつじと、6月中旬まで楽しめます。つつじの観賞だけでなく、澄んだ空気の中のハイキング・トレッキングも爽快です。

とちぎの景勝百選

花ひらく里

横根高原と井戸湿原 (鹿沼市)
横根高原は、標高1300㍎、日光市・鹿沼市にまたがり、一帯は前日光県立自然公園に指定されています。山間に「小尾瀬」とも呼ばれる井戸湿原があります。小さな高層湿原ですが、湿原性植物や周辺の亜高山植物など400種以上が生育しているため「植物の宝庫」といわれ、早春の芽吹き、6月上旬のレンゲつつじ、8月の湿原性植物の可憐な花、10月下旬の紅葉など、四季折々に変化すばらしい自然を見せてくれます。





国際児童年
1979年4月号より



とちぎファミリーランドオープン

県総合運動公園内に大規模な遊園地「とちぎファミリーランド」が、4月15日にオープンした。これは、栃の葉国体の記念事業の一環として設けたもので、最新のジェットコースターや大観覧車、それに関東地方では初めてというサイクルモノレールなど十数種類の遊具を備えている。

(広報誌「とちぎ」1979年5月号より)



天然のよさに変わらぬ人気



本県唯一の砥石産地 茂木町深沢
(広報誌「とちぎ」1979年6月号より)

伝統が生むいぶし銀の味



出荷に追われる野州栃木瓦産地 栃木市箱森
(広報誌「とちぎ」1979年4月号より)



国際児童年を記念し「子どもの船」を就航した。小学6年生と中学1年生の団員436人を乗せて6月22日に東京晴海港を出航、鳥島をまわり約1200キロを就航し、同24日に全員、無事帰港。団員は、団体生活と幅広い学習で規律と連帯を養い、実り多い体験をした。

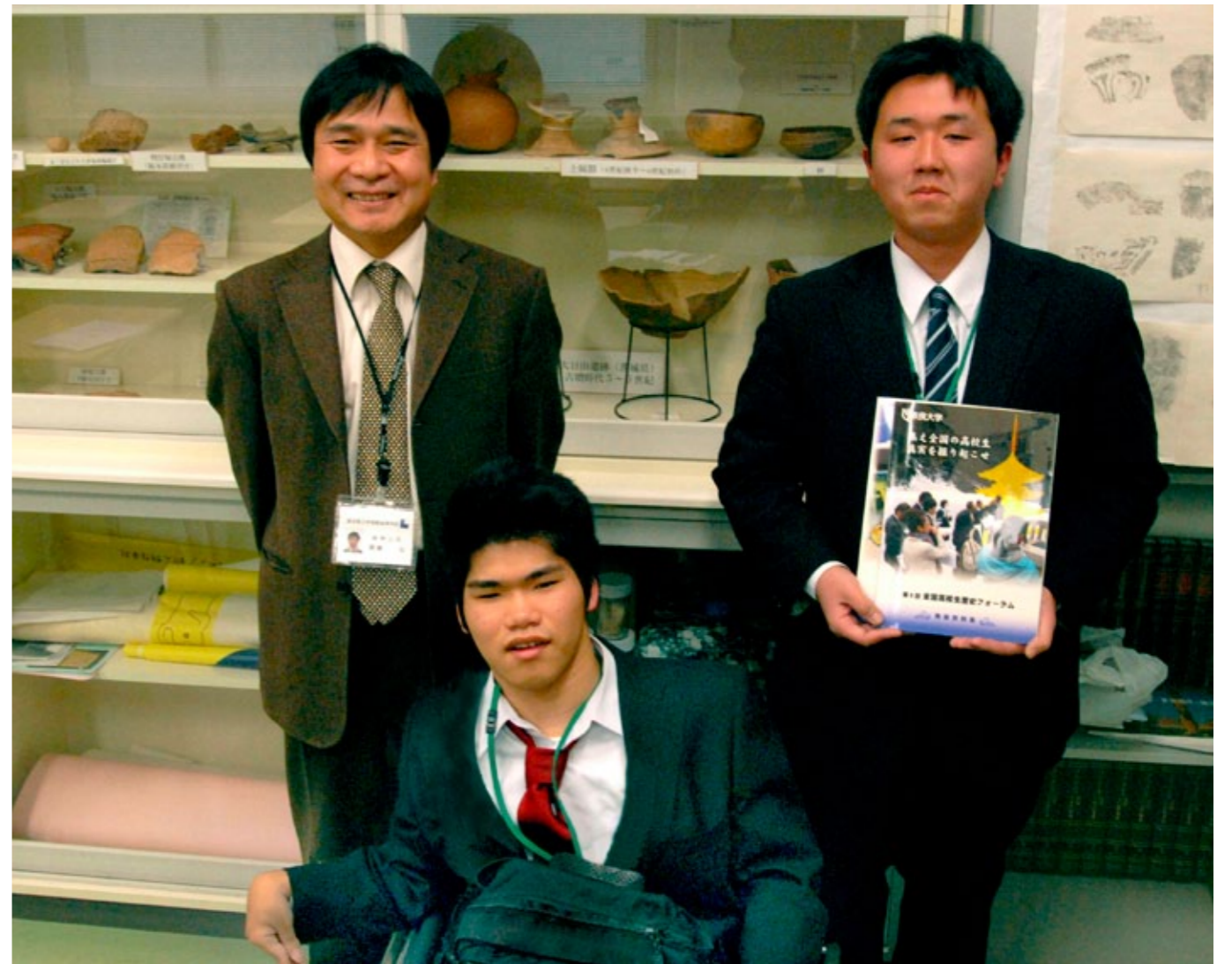
(広報誌「とちぎ」1979年7月号より)

大慈寺周辺の窯跡を調査

栃木県立学悠館高等学校の歴史研究部が、奈良県で開かれた「全国高校生歴史フォーラム」で優秀賞を受賞しました。同フォーラムは「ほんとうの歴史・文化財・地理を研究する楽しさを高校生に実感してもらおう」と、奈良大学が毎年主催しています。6回目のフォーラムが昨年11月に奈良大学内で開かれ、全国から応募のあった研究レポートの中から、優秀賞に選ばれた6校の代表が研究成果を発表しました。学悠館高校のテーマは、「若き日の円仁が学んだ石舟〜1200年の時を越えた寺と窯跡〜」。慈覚大師円仁ゆかりの大慈寺周辺に点在する古代の窯跡を踏査した結果をもとに、古代石舟の仏教と窯業の背景について発表しました。

文化財保護と普及・活用へ

フォーラムでは、歴史研究部の竹澤渉部長（当時）が壇上に立ち、映像や実物を示しながら、踏査した寺や窯跡、出土した古瓦や須恵器などの遺物を紹介。出土品などから、8世紀中頃に下野国にも国分寺が建立され、この地域が一大窯業地となったこと、瓦の特徴から大慈寺にも供給していた可能性が高いと、考察し



左から顧問の齋藤弘教諭、新部長の吉田隆寿さん、前部長の竹澤渉さん

ました。最後に竹澤さんは「この研究が、仏教と窯業についての理解を深め、文化財の保護と普及・活用につながればよいと思います」と結びました。

今年のテーマは地誌の研究

学悠館高校は、全国でも数少ない単位制の県立高校です。定時制と通信制があり、幅広い年齢層の生徒が通学しています。自分の進路希望に合わせて時間割を作成できるのが特徴で、3年以上在籍し74単位以上習得すると卒業できます。

歴史研究部は、2006年に同好会としてスタート。年ごとに研究テーマを設定し活動しています。現在の部員数は4人。この4月から、4年生の吉田隆寿さんが新部長を務めています。今年のテーマは古文書の研究。旧皆川城内村（現在の栃木市）に遺されていた明治時代初期の古文書「地誌編輯材料取調書」を解説します。わかりやすい文体に直して、パソコン上で誰でも閲覧できるようにする計画です。「地誌には、地形や気候、人口、産物など、地域のさまざまな情報が記されています。わかりやすい表現にして公表すれば、郷土史の研究に役立てることができると思います」と吉田部長。

第6回全国高校生歴史フォーラム

古代窯跡の研究で優秀賞

県立学悠館高校歴史研究部

（栃木市）



全国高校生歴史フォーラムの会場で発表する竹澤さん



窯跡付近で瓦などの遺物を調査する学悠館高校歴史研究部員



ガーンジィゴールデンミルク

(那須町)



那須高原 **南ヶ丘牧場**
那須町湯本 579
☎ 0287-76-2150

「コクがあり、ほんのりあまく、飲みやすい」と人気の南ヶ丘牧場の「ガーンジィゴールデンミルク」。ガーンジィという珍しい牛の牛乳です。ホルスタインの牛乳と比べ、蛋白質、無脂固形分が多く、コクがありなめらかな味わいが特徴です。色はすこし黄色がかったのでゴールデンミルクと名付けました。3月に開かれた食の国際展示会会場で行われた「ご当地牛乳グランプリ」で最高金賞を受賞しました。南ヶ丘牧場では、1日2回、牛にストレスを与えないようにやさしく搾乳し、パステライザー殺菌により、濃厚な搾り立ての牧場牛乳として商品化しました。「那須ブランド」にも認定されています。牧場内の「ミルク茶屋」で味わえる（1杯210円）ほか、土産用に900ml瓶1160円もあります。

フォトとちぎ 2013 年春号

2013年4月1日発行 発行責任 栃木県広報課 編集発行 栃木県広報協会
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20 ☎ 028-623-2191